

平成22年度 学校環境デーの取組について

三重県教育委員会

【特色ある取組例：小学校】

学 校 名	取 組 内 容
松阪市立 松ヶ崎小学校	<u>リサイクル工作</u> 空き箱や容器、トイレットペーパーの芯など廃物を利用して工作を行い、リサイクルの大切さに気づくことができた。 また、環境を守る取組が、自分から家族、親戚・知り合いへと広がっていくように、プチポスターを作成し、自宅のゴミ箱や冷蔵庫、机など目に見える場所に貼って呼びかけた。自宅以外にも配れるよう多めにプチポスターを作成した。
大台町立 宮川小学校	<u>水の学習</u> 宮川の水について、自然との関わりや、自分たちの生活との関わり、モリアオガエルなどの動物の生態との関わりなど、発達段階に応じて水の学習に取り組み、宮川の水をきれいにする事の大切さを学んでいる。 例えば、4年生では、普段の生活の中で利用している水が、どのようにして自分たちの家まで運ばれてきているのか話し合った。その中で出てきた疑問をもとに、自分たちの水をつくっている浄水場の見学を行い、学んだことを新聞にして発信した。
伊勢市立 今一色小学校	<u>クロマツの植樹</u> 防風防砂の役目を果たしてきた松林がすっかり枯れてしまっている現状をとらえ、地域の一員として松の植樹を行い、松林をもとの姿に戻そうとする取組を行った。県の環境森林部、市の農林水産課、地域、学校が連携し、枯れた松林を整備し、植樹を行った。専門家に植え方を学び、地域の人たちとともに松を植える活動では、一生懸命穴を掘ったり、水をためるための土を盛ったり、苗木に支えをしたりと、生き生きと活動する子どもの姿が見られた。
紀北町立 矢口小学校	<u>EM菌で海の浄化</u> NPO地球環境・共生ネットワークの協力でEM団子をつくり（紀州EM広場主催）、海に投入し、海の浄化に取り組んだ。 また、校区内の海岸清掃や、海上保安庁の協力による海岸への漂着ゴミ調べなどを通して、日本や太平洋の海ゴミ問題について学習した。 さらに、全校集会で、海の水質汚染や赤潮についての学習をした。